平成21年度　市長との対話会（タウンミーティング）稲毛区会場議事録

日　　時：平成２１年１１月２８日（土）　１４：００～１６：００
場　　所：穴川コミュニティセンター　多目的室
参　加　者：６０名

■開会

【鈴木企画調整局次長】

大変長らくお待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまより、市長との対話会、テーマは10年後20年後に向けたまちづくりの方向性について、を開催させて頂きます。

私は本日の進行役を務めさせて頂く、企画調整局次長の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

対話会の進行にあたりまして、スケジュールと連絡事項を申し上げます。

まず本日のスケジュールですけれども、はじめに市長から、新たな基本計画の策定や本市を取り巻く状況についてご説明をさせて頂きます。

その後、市長と皆様との意見交換に入らせて頂きます。お時間は16時までの予定でございますので、円滑な進行にご協力をお願い申し上げます。

次に、連絡事項ですけれども、お手元にございます式次第の中ほど、２のところにお願いがございます。皆様へのお願い事項を記載してございますので、ご一読頂きますようお願いいたします。ご不明な点などございましたら、お近くのスタッフまでお声かけください。

よろしゅうございましょうか。それでは、新たな基本計画の策定や本市を取り巻く状況について、市長の挨拶に続きまして進めたいと思います。熊谷市長、よろしくお願いいたします。

■市長からの説明　テーマ『10年後、20年後に向けたまちづくりの方向性』について

【熊谷市長】

皆様こんにちは。本日は土曜日のお昼にお集まり頂きまして、誠にありがとうございます。

私が市長に就任して５か月になりましたけれども、私自身この千葉市政を新たにスタートさせるにあたって、市民の皆様方の要望を単に聞く、聞き置くだけではなくて、市民の皆様方に自らが主体となって、このまちをどういう風に作っていきたいかということをお考え頂くことが、重要だと考えました。そして皆様に、その中で市民がどういう役割を担っていくべきなのか、そしてその上で、この千葉市がどういう方向性に向かっていくべきなのか、そのことをお話したいと思っております。

ちょうど今、千葉市の基本計画というまちづくりの将来の方向性を決める大綱を作る時期にありますので、これを作るにあたって市民の皆様方の意見を取り入れていって、これを作っていきたいと考えています。その、市民と一緒に作っていく過程において、まちづくりというものを多くの市民の方と一緒になって考えていきたい、その絶好の機会である、そういう趣旨で、まずは各区でやっていこうと考えました。

本当はもっともっと細かい路地にまで行ってお話をしたいんですけれども、まずは初めて

の試みとして、各区で皆様方と意見交換をしていきたいと、そういう風に考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、スライドにしたがって、お話をさせて頂きます。

まず説明の流れですが、基本計画というのはそもそも何ぞや、ということを、まずお話申し上げたいと思います。

そして、基本計画を作るにあたって同じ認識を持って頂かなければいけませんから、千葉市がどういう状況にあって、これからどうなっていくのかということについて、お話をさせて頂きます。

そして、財政状況についてもお話をします。お金というのは限りがございます。今までは右肩上がりの成長の中で、予算は毎年増えてまいりましたから、介護、福祉、子育て、教育、と市民の皆様からいろんな意見を頂いて、順次予算を増やすということでやってきましたけれども、これからは予算というのは限られてきます。この限られた予算の中でどこに重点的に配分するかというのを考えていかなければならない時代ですから、まずは千葉市の財政が今どうなっているのか、そして将来に渡ってどうなっていくのかということを、ご説明をいたします。

財政健全化の取り組みということで、その財政が非常に危険な状況にあるということをお話申し上げて、どのように財政難を克服をしようとしているのか、していかなければいけないのか、具体的にどういう取り組みが必要なのかということについて、お話を申し上げます。

最後に、ここが本題となるわけなのですが、それらの認識に立ったうえで、この千葉市がどういうまちを目指していくべきなのか、どういう魅力、特徴があって全国に対してこのまちはこういうまちだということを言えるのか、または住んでいる人たちがどういうものを望んでいるのか、どういうまちづくりをしていくのか、そしてそこに市民の役割が今までと違ってどうあるべきなのか、そういうお話についてさせて頂きます。

その後、意見交換という流れでいきたいと思っております。

まず、基本計画の策定についてご説明します。

行政というのは計画的に運営されるべきものですので、さまざまな計画がございます。

千葉市の中長期の計画は、３つの構成になっておりまして、まず、市の基本構想という大きなビジョンがあります。住んで良かったと思えるまちにしたいとか、そういう大きなまちとしてのビジョンです。

そしてこの基本構想に基づいて、「ちば･ビジョン２１」という、平成 13 年から 27 年の 15 年間を対象とした基本計画があり、これがどういうまちにしようかというグランドデザインです。

それを受けて、「５か年計画」と言いますが、お金を配分して具体的に何を作ったり、どういう制度を作っていくのかというのを決めた実施計画というものがあります。今は第２次５か年計画の期間中でございまして、これは５年ごとにやっております。

それで、今回われわれがお話したいのは、真ん中の基本計画です。平成 13 年からスタートしていますが、時代の激変の中で、だいぶ、今の実情や未来と合わなくなっている部分があ

りますので、今回それを見直しして、10 年間の計画としてもう一度作り直そうというのが、今の段階でございます。

そして、実施計画についても、時代の激変の中で、５年間で何も変わらないというのは難しいですから、５年という長期で作るのではなくて、３年くらいの、時代に対応できる形でこの計画も作るべきではないのか、というのが、今のわれわれの方針でございます。

新たな基本計画を策定するにあたって、どういうことを考えなくてはならないのかといいますと、まず、人口が減る社会になるということです。千葉市ももちろんそうですけれども、人口が減るというのは、2000 年以上の日本の歴史の中で、初めてのことであります。今までの全ての常識、それは行政の常識でもあり世の中の常識というのが、全て引っ繰り返るくらいの大きな変化です。その人口減少社会に本当の意味で向き合わなければならないのが、これからの 10 年であり 20 年です。

そして、地球温暖化も進んでまいります。そして、分権型システム、地域主権と言われておりますけれども、地方分権というのが確実に進んでまいりますので、そのことも十分に考えていかなければいけません。

そして、少子高齢化ということで、子供が減っていくということ、そして高齢化が進んでいくということがあります。

そして、集約型都市構造への転換です。これは、コンパクトシティということが言われていますけれども、人口が減ってきますと、今までのように膨張を前提としたまちづくりというのは成り立たなくなりますし、また、高齢者が多くなれば自動車社会にも限界が出てまいります。郊外型のショッピングセンターを基本としたまちづくりなどにも、限界が出てきます。そういう意味では、まちをどうやって集約していくか、コンパクトなものにしていくかといったことが非常に重要になってまいります。

そして、市財政状況の悪化ということで、やはり右肩上がりが終わって、人口が減っていったりしますと、財政状況は非常に厳しいものになってしまいます。その厳しい財政状況を前提としたまちづくりの考え方というのも、必要になってまいります。そこに、市民であったり NPO であったり、地元の企業の人たちができること、力を発揮できるようなことをわれわれも考えていかなければいけません。そして、せっかく政令指定都市になったわけですから、各区ごとにそれぞれの特色を活かしたまちづくりをしていかなければならないというのが、われわれの基本的な姿勢でございます。

今具体的にどうなっているのかと言いますと、先月、計画を作るための本部の設置をいたしました。そして、今月から来月の初旬にかけて、今日のこれもそうですけれども、各区タウンミーティングをさせて頂きます。そして、このタウンミーティングだけで終わりではございません。市民の皆様方に入って頂いて、１月から５月にかけてですが、ワークショップをやって頂きたいと思っております。こういう場も大事ですし、もっと少人数で意見を出し合って、もっと掘り下げた内容を受けて、われわれも作っていきたいと考えています。

そして、８月ですが、来年の夏に計画の原案を作成いたします。そしてここから、学識経験者やまちづくりの専門家の皆様方に入って頂いた審議会で、再来年の２月まで議論をして頂きます。そして、４月に、ある程度案を固めて、パブリックコメントという広く全ての市

民に対して意見を聞く、そういう手続きを経まして、６月に計画の策定となります。
１年半くらいかけての長いスケジュールとなりますけれども、冒頭で申し上げたとおり、これは、この計画の中身そのものももちろん重要ですけれども、作るそのプロセスが、私は一番大事だと思っております。このプロセスの中で、市民の皆様方が、この千葉市のまちづくり、未来についてお考え頂いて、そして、皆さんがそれぞれの役割を考えるということが、何より千葉市のまちづくりの未来にとっては必要だと思っておりますので、そういうさまざまなプロセスを経ながら、この計画を作っていきたいと思っております。

では、まず策定にあたって、千葉市の現状と、今後の動向についてお話を申し上げます。

ここには、先ほど申し上げたことを書かせて頂いております。
先ほど申し上げたとおり、人口減少ですとか、さまざまな社会情勢の変化がございます。

まず、人口についてですけれども、千葉市の人口は、今までずっと増えてきました。特に千葉市というのは、県庁所在地の中で、人口の伸びが最も大きい市でございます。他の県庁所在地というのは、江戸時代に大名の城下町だったりしまして、それなりに基盤のあるところが多いです。しかし、この千葉市は戦後急激に人口が発展した、日本の右肩上がりの中でも、とりわけ象徴的なまちであります。
その人口も、今のところ平成 27 年に 97 万人まで達して、その後減少に転じる見込みになっております。ちなみに、今は 95 万 6 千人ほどという状況でして、人口を減らさないようにわれわれも頑張って努めてまいりますけれども、しかし、近い将来、人口が減りはじめるということが、これはもう避けようがないということを、まず大前提としておかなければいけないということです。

そして、高齢化も進んでまいります。65 歳以上の方が占める割合については、平成 17 年から 10 年間で、16.6%から 25.1%に急上昇いたします。そして、平成 47 年には 33.2%、３人に１人が 65 歳以上になるということが予想されております。これだけの急激な高齢化が、この千葉市にも、もうまもなくやってくるということですから、高齢者が増えるということは、当然社会が負担しなければならないコストというのも増えていきますし、逆に言えば、高齢者の方に、今までのような高齢者の扱いではなくて、もっと元気な高齢者であり、もっとまちづくりを支えて頂ける方として、どういう風にその方々にご活躍頂くかということが、逆に試されてくるということになります。

これはちょっと細かいデータになりますけれども、社会保障、社会を支えるための医療ですとか介護ですとか、そういう費用がどれだけ増えてきたのか、そして国民の所得との関係性を示すものであります。棒グラフを見て頂ければわかるとおり、費用はずっと増え続けております。
注目して頂きたいのは、ここの黄緑の折れ線グラフでして、これは、国民の所得に占める社会保障費の割合です。所得が増えていても、さらにそれを上回るペースで社会保障費が増えています。要は、高齢化にともなって社会が支えていくコストの比率が高まっていること

を示しているものです。

それを柔らかくまとめたものが、このグラフになります。年金ももちろん増えていますし、医療も増え、そして、福祉も増えるということで、高齢化にともなってこうした分野が拡大することによって、多くの方々にお支払い頂いている税金の使い道が、ある程度固定化されてしまう、増えてしまうということが現実として起きてくるということです。

千葉市の財政がどういう状態にあるかということですけれども、千葉市が政令指定都市に移行してから、非常に早いペースで基盤整備を行ってきました。道路、下水道などです。そうしたものを、急ピッチで整備してきました。下水道などは、いまや他の政令市に負けないくらい整備されているなど、本当にこの間、都市基盤は急速に発展してきました。

その代わり、この棒グラフを見て頂ければわかるように、借金は急激に増えまして、いまや１兆円を超える借金を千葉市は抱えているという状況です。１兆円と言われてもピンときませんけれども、どういう状況にあるかと申しますと、まず来年度の予算を作るにあたって、全然お金が足りません。今までの千葉市の歴史上、本当に初めてなくらいお金が足りません。市の場合は、国と違って、使わなければいけないお金がほとんど決まっており、市が自由にできるものではない部分も大きいです。そういう予算をどんどん計算していくと、お金が 270 億円も足りませんよというのが、今の状況です。

そして、今までのような財源対策、今まではお金が足りなければ借金をしていた、もしくは、基金から前借りをしていました。お小遣いの前借りのようなことをしてきましたけれども、そういうことをやっていきますと、非常にまずい状況にあるということです。それは、夕張が破綻してから、国で地方財政健全化法という法律ができまして、借金をしすぎている市・県に対して、国から、このままではこの市はだめですよという、イエローカードなりレッドカードを出すようになりました。

そのイエローカードに相当するものが、この早期健全化団体というものです。これは、早く健全化しないと危ない自治体ですよということです。これに指定される条件が、この実質公債費比率、これは難しい言葉ですけれども、その年の収入のうちどれくらいが借金返済に自動的にとられてしまうか、借金で首がまわらない度と私は言いますけれども、そういうものが 25%に近づいており、このままいくと、平成 24 年度に 25%を超えてしまいます。先ほど申し上げたとおり、早期健全化団体ということになり、いわばイエローカードをつきつけられたことになります。具体的に言うと、全国紙の一面に、千葉市が大都市で初めて早期健全化団体に転落した、というのが一面で報じられるような、そういう状態になってしまうということです。

そうなりますと、住んでいる人も逃げ出すかもしれませんし、新しく住もうとしていた人が来なくなるかもしれません。そういう意味では、これを避けようと、避けなければならないという状況です。このままですと、平成 24 年度にその数値を超えてしまいます。われわれはそれを食い止めるために、あらゆる努力をして持ちこたえなければならないという、大きな正念場に来ているというのが、今の財政状況です。

具体的に、どのように財政を健全化していこうと考えているのかについて、申し上げます。

ご存知の方も多いと思いますけれども、先月私は「脱・財政危機宣言」というものを出させて頂きました。

財政非常事態宣言なり財政危機宣言というのは、川崎市や広島市といった他の政令市でも、過去に出されております。このままいくと財政がだめになる、だから、今からこういう取り組みを徹底的にやるという宣言が、財政危機宣言や財政非常事態宣言です。「脱」という文字が付いておりますのは、千葉市は、確かに厳しい状況ですけれども、基本的な体力はあります。首都圏の中で東京に近い政令指定都市ですから、比較的財政力は豊かなんです。収入も入ってきますし、まだ他の政令市に比べますと若いまちですから、本来力はあるんですけれども、少し前に申し上げたとおり、急ピッチで基盤を整備してきましたので、借金返済がピークにきていて大変厳しい状況です。そういう意味においては、脱出できる見込みはあるということで、「脱財政危機」宣言という形で、私は発信しました。

具体的にですが、まず収入を増やす方法として、税金をしっかりと取るということがあります。これは裏を返せば、税金を本来取らなければいけないのに、取れなかった人たちを放置していたということです。千葉市は政令指定都市の中で、最もこの徴収率が低いまちです。どういうことかと言うと、真面目に払っている人がより負担をしていた、ということです。払わなければいけない人が払っていない分を、真面目に払っている人が負担をしていたということになります。そういう意味では、公平性にかけることをやっていたということになります。もちろん、経済的に苦しい人たちに対して、例えば減免措置をしたり、分割払いにしたりなどの、そういうきめ細かな対応はするべきですけれども、払えるのに払わない人たちを放置するのは、決して他の市民のためになりませんので、ここの部分について、数年前からわれわれは強化をしているところであります。これは直接的な増収になりますから、しっかりと私たちは取り組んでいきたいと考えております。

それから保有資産の有効活用、売却ということで、千葉市が持っている土地であるとか、不要になった建物、もしくは役割を終えた施設について、もう一度、本当に必要なのか問うて、そして、民間に売却していくなり、もしくはその施設を別の形で有効活用していくということが必要になってまいります。

それから、受益者負担の適正化ということで、これは、なんでも料金を上げるということではございませんけれども、千葉市は、例えば下水道料金は他の政令市よりも安い部類に入っているとか、コミュニティセンターはただで使用ができたりします。しかし、他の政令市の状況を見ても、応分の負担をして頂いているところというのは、たくさんございます。そういう意味では、もう一度、最低限のご負担をお願いするべきではないかという、凄まじい金額ではなくて、常識的な範囲の中で、最低限、使うにあたってのお金を徴収する、そういうことも必要であろうということです。

それから、それだけではなくて、無駄を見渡してカットしなければならないということで、われわれはまず、人件費を見直していかなくてはならないと考えております。市民の皆様方にある程度の我慢をお願いするのであれば、まず自分たち自身が率先して身を削っていかなければいけないだろうということです。給料を削るというのは、決して好ましいとは思いませんけれども、しかし、今のこの局面にあっては、私は人件費についても見直しをしていかなければいけないだろうと思っております。すでに私や副市長については、９月の議会で承

認を頂いて、10 月から大幅にカットをしています。これについてさらに、千葉市役所全体として、人件費の見直しをしていかなければいけないと考えております。

それから、民間機能の活用ということで、民間でできるものを本当に市でやっていないだろうか、それから民業を圧迫していないのか、それをもう一度見て、行政が本当にやらなければいけないもの以外については、民間に委ねていくということをやって、行政のスリム化を図っていかなくてはいけないと思います。他にも、市の施設であっても民間の知恵を使っていくものも、どんどん導入していかなければいけないと思います。

それから、外郭団体の統廃合および OB 派遣の見直しで、国でも天下りがいろいろ議論になっておりますけれども、千葉市においても、役割を終えた外郭団体が本当にないのか、もしくは統廃合することによってもう少しスリムになれる外郭団体が本当にないのか、徹底して見ていかなければなりません。そして、その外郭団体に市役所の幹部、OB が確かに行っております。それに対して私は、全部、否定をするつもりはありませんけれども、本当にその全ての人たちが必要なのか、OB の人を受け入れる目的で作られているポストが本当にないのか、そういったことについても、しっかりと見直していかなければいけないと考えております。

それから、事務事業の徹底した見直しということで、いま国で事業仕分けを、昨日終わったんですかね、やっておりましたけれども、千葉市でも事業仕分けに近いことをやっております。10 月から 11 月の頭にかけて、事務事業評価の見直しということで、やっております。これは、同じように外部の方々に、担当者からヒアリングをしてもらって、外部の方々の目で、不要か見直しが必要か、そういったものについて、やって頂きました。国の事業仕分けとちょっと違うのは、どんな事業であっても、それに恩恵をこうむっている人というのは確かにおりますので、そうした人の意見を聞くべきだろうと思いまして、傍聴する方々が意見を言えたり、関係する方々が意見を表明して、その意見を聞いたうえで、評価をする人たちが判断を下だすという方法をとっております。また、傍聴にいらっしゃれなくても、事前にこの事業が対象だよということをお示しして、意見も求めておりました。ファックスやメールで頂いた意見というのは 600 件を超えております。そういう意見を全て、私たちは予算編成の中で、現実的な形で反映をさせていこうと、そういう取り組みをさせて頂いております。

それから建設事業の厳選ということで、当然財政が厳しいですから、公共事業についても見直しをしていかなくてはなりません。そのときに、私たちがどういう考え方で見直しをするかと言いますと、もう少しで道が開通するですとか、そういう、もう少しで効果が発揮できるものについては、しっかりとお金をつけます。しかし、たとえば用地の買収率が５％だとか、もしくはこれから着手するところだとか、完成するのに 20 年かかるようなものについては、２、３年しばらくの間凍結をしていこうと、そういうことによって厳選していって、市民の皆様方に役に立つ公共事業は続けて、そうではなくてしばらく時間がかかるもの、今しなければいけないというわけではないものについて、見直しをすることによって、なんとかコスト削減をしていこうと考えております。

これらの考え方に基づいて、現在、行政改革をするための何をやるのかという、来年度からスタートする行政改革推進プラン、そして、具体的にこの考え方に基づいてどう最終的に財政を健全化させるのかという財政健全化プラン、これらを今年度末までに策定をすることにしております。

その行政改革推進プランというのは、一体何をやるのかということです。期間は、来年度から平成25年度までの4年間です。中身は、まずは、計画的に財政運営していこうということで、いきなりお金が足りませんということのないように、しっかりと計画していこうということです。

次に、簡素でスリムな行政運営をしていこうということです。先ほど申し上げたとおり、民間に委ねていけるものは委ねてスリムにしていこうということです。

次に、財政基盤を強化していこうということで、どんなに苦しいときでもある程度の収入が見込める、そういう体力をさらにつけていこうということです。

それから次に、市民とともに構築して、市民に信頼される行政運営をやっていこうということです。こういうタウンミーティングもそうですし、市民の皆様方に私たちの持っている情報を積極的にお出しして、市民の皆様方と一緒になってまちづくりを考えていこうということです。

次が、市民の視点による行政サービスの向上ということで、市民の皆様方にとって、一番求めているもの、市民が本当に便利と思うものについて、その視点に立って行政を運営していこうということです。

そして次が、新たな執行体制ということで、そういったものをできる組織に変えていこうということです。特にやらなければいけないことは、現場重視の組織に変えていかなければいけないということです。市民の皆様方の意見は、デスクに座っていてもわかりませんから、もっと現場で市民の皆様方と接する、例えば区役所ですとか、そういう現場のところの人たちが市民の意見に普段接して、そしてそれが制度や予算に反映されるような、仕組み、組織、制度を作っていかなければいけないだろうということです。

それから、そういう全ての根幹である人材を、大事に育成していこうということです。やはり実行していく中で血液のように大事なのは職員ですから、職員の能力やモチベーション、意識というものを向上させていく、そのための仕組みを取り入れていこうということでございます。

ここまで、われわれが考えていることや、千葉市の現状についてお話をさせて頂きました。ここからが今日の議論のポイントになります。

これからのまちづくりのイメージです。今までのまちづくりに対する考え方や、地方分権の考え方というのは、私はちょっと違うと考えております。今までは、国があって、国がやらないものを県がやって、県がやらないものを市がやって、そして市がやらないものを地域コミュニティであったり自治会だったり市民がやるというような、上から下のタイプだったと思います。

例えば今、国が議論している地方分権についても、あれも本来はおかしな話だと思うのです。国が今やっている事業のうち、どれが地方でできるかという話です。私は、それはそもそも間違っていて、もともと、あらゆるものを市民が、地域コミュニティがどうできるんだ、ということを議論すべきなのです。市民ができないことを、地域コミュニティが補完して、地域コミュニティができないものを市がやって、そして市ができないものを県がやって、そして県ができないものを国がやる。本来はこういうものでなければいけないと、私は思いま

す。
　ですから、行政がやっている仕事を、国とか県とか市の概念を外して全部並べてみて、そのうち市ができるものはどれで、市ができないものを県がやって、県ができないものを国という、逆の流れでやるべきです。それと同じように、地域に関しても、このまちづくりというのは自治であり、自治というのは自ら治めると書くわけですから、行政が何でもやるとか行政に任せる、もしくは行政の言うとおりにする、そういうことではなくて、このまちを運営するのは市民でなければならないということなんです。だから税金を払っているんだということだと思います。
　そして、自分たちで決定して、自分たちで責任を負って、自分たちで汗をかく。しかし、皆さん仕事がありますから、できないものについて、市がやる、市がサポートする、そういうような流れで、これからのまちづくりは考えていかなければいけないのだと思います。

　そこで、このタウンミーティングで私が市民の皆様と意見交換したいことは、目の前の道路がどうこう、もちろんそれも大事ですが、10 年後、20 年後にこの千葉市はどういうようなまちになるべきなんだ、ということです。20 年後、30 年後を見据えて、その折り返し地点として 10 年後どういうまちを目指していくのか、どういうまちだったらできるのか、この千葉市がどういう魅力と特徴があって、他市にはない魅力と特徴があって、それをどういう風に高めていったら、この千葉市が全国に誇れるまちになるのか、もしくは全国からここに住みたいと思ってもらえるようなまちになるのか、もしくは住んでいる人たちが充実感をもって人生を送っていけるようなまちになるのか、そういう議論をしていきたいと考えております。
　お金が限られている中で、どの分野に集中的に投資をしていくのかということ、そして、どれだけ市民が、このまちづくりを支えていくことができるのか、そのために行政はどういう仕組みを作らなければいけないのか、どういうサポート体制にしなければいけないのか、そういうようなことについて意見交換をするということが今日のテーマです。
　様々な方のご意見を頂きながら、われわれも基本計画の中にそれを織り込んでいきたいし、今日がスタートですから、これからもこうした話し合いの場を設けていきたいと思っております。いろいろなご意見を頂きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

■意見交換

【鈴木企画調整局次長】
　これからのお時間は意見交換となりますけれども、できるだけ多くの皆様にご発言頂けますよう、恐れ入りますが、お一人様３分程度を目安に、簡潔にご発言を頂けましたらと存じます。３分程度経ちましたら、合図をさせて頂きますので、まとめに入って頂けたらと存じます。
　また、ご発言の前にお名前を頂きたいと存じますので、よろしくお願いいたします。
　それでは市長、よろしくお願いします。

【熊谷市長】
　それでは、トップバッターをやるぞという方、お願いします。

【市民A】

お話の中では、残念ながら、民間事業の育成や、産業振興策が伺えませんでした。これからの千葉市は人口減少社会、高齢化社会になるのですから、20代、30代の若者たちのために、千葉市での働く場所、雇用の場、これを前向きに捉えてほしいと思います。

読売新聞にも出ていました。熊谷さんのお話は非常に良いんだけれども、産業を育成する視点が欠けていると。地域住民の所得をどうしたらいいのか、税収を増やすにはどうしたらいいのか、そういう知恵が欲しいところでございます。ぜひ、産業育成、中小企業の支援にについて、よろしくお願いいたします。

【熊谷市長】

すみません、まずお話をさせて頂くと、ここはお願いをする場所ではありません。経済成長ということをお求めになるならば、どういう方向性で産業振興していくべきではないか、ということについて意見交換をする場所ですので、行政に考えろという場所ではないことを、皆様方にご理解を頂きたいと思います。

それから、経済育成・産業育成については、われわれも当然考えております。千葉市は重工業が強いですから、そういうところについて、どう育成ができるか、今取り組みをしているところです。

ただ、その大前提を申し上げますと、産業育成という考え方そのものが、右肩上がりの時代の考え方だということです。人口が減っていく中で、いくら税金を産業育成に使っても、人口が減るようなまちに企業は来ません。まずは住政策であり、どういう魅力を作っていって、ここに住み続けたい、もしくは住みたいというまちにするかということが大事です。

雇用も、人口が減って、働く人がいなければ雇用は生まれません。それから、消費をする人たちもいなくなるわけです。ですから、この千葉市において、私が一番重要だと思っているのは住政策です。

これはなぜならば、千葉市はもともと人口が急増したと申し上げましたけれども、これは人口爆発時代の中で、たまたま千葉市に住む人口が多かった、結果的に千葉市に住んだ人が多かったということなのです。市川や船橋、東京に住めずに、結果的に千葉市に家を買ったり団地に住んだり、そういう流れの中で、爆発的に人口が増えたということなのです。

しかし、人口が減ってくる社会ということは、今まで千葉市に住んできたような人たちが、市川や東京に家を買える時代になるということです。ここに対して、危機感が足りないと思います。一気に、引き潮が引いていくように、この千葉市に住む人たちがいなくなるわけです。ですから、船橋や市川でなく、あえて千葉市に、指名買いのように住む人たちを増やしていくことが、何より千葉市にとって重要だと思っております。この千葉市を、住みたいまちにすることが一番重要だということを、私はまず申し上げたいと思います。

【市民B】

まちには人がいなくてはいけない、と私は思うんです。今、人を増やさなければいけないという話を伺いました。市川や向こうに流れるという話で、われわれ子どもを持っている世代が、果たして千葉まで来ようかと考えるときに、市川とか浦安とかはすごく子どもに対する医療費の助成があって、そういうところを親としては見るものです。千葉市は 18 年には

200 円になったけれども、でも他のところと比べると、千葉県内でもサービスは下の方かなと思いますし、千葉市がそういうところを言うだけでも違うのかな、と思います。

市長のマニフェストの中で、一人親に対しても、というところがあり、いま父子家庭、母子家庭とありますが、父子家庭に対しての支援もそういうところでサービスがあると、親としては、あの市はいいところなんじゃないのかなと、そういうことになります。

そして、一緒に移り住んできた子どもが、10 年後、20 年後に働く世代になって、千葉市の人口が増えていく、という見方はどうなのかなと考えます。

【熊谷市長】

ありがとうございます。子育てについてご意見が出ましたので、それに関連して、伺いたいと思います。

【市民 C】

住みやすいまちということを仰っていたし、それが当たり前のことなんですけれども、住みやすいまちにするためにはどうしたらいいかと考えますと、いろいろあると思うのですが、早急にやって頂きたいと私が思うことは、少子化についてです。

子どもさんをなるべく多く増やす、そして健康に育てるということが必要なわけで、私が何かで聞いたのは、千葉市では、健康保険に加入してない子どもさんがかなりいるという話ですので、もし親御さんが保険に入ることができないならば、市はそれに何かの援助をすべきだと思います。

それから、これから高齢者が増えることは間違いないので、千葉市では公設の養護老人ホームというものがあまりないということを聞いておりますし、近所のお年寄りが私のところにきて、老人ホームがないんだよ、と、入ろうと思っているんだけれどもなかなか入れてもらえないとも言われました。

それだけとは言いませんが、急ぐべきものは少子化と、老人の住みやすいまちにするというところから、はじまるのではないかと思います。

【市民 D】

千葉市は財政難と言われていますが、保育所がまず足りないです。うちの事業所には従業員、スタッフがいますけれども、保育所待ちの状態も結構あります。

それと、サービス業は土曜、日曜も働くんですが、市の保育所は土日休みなんです。今日は私だけ抜け出して来たんですけれども、土曜日に預かって貰う場合は、前もって手を挙げるのだそうです。ですが、ほとんど学生さんとパートの方だそうで、正式な保母さんの資格がある方ではない。何かあったらどうするのかというのがあります。

それと、保育所がもうちょっと作れないとするならば、少子高齢化で、小学生も人数が少なくなっていますので、空き教室があると思うんです。そういうところを、利用してもいいんじゃないかなと思います。働きたくても、不景気になってご主人様の収入が減って奥様が働かなくてはならないというこの時代に、働きたい人はいっぱいいます。受け皿もあります。あるんですけれども、預ける場所がない。そんな待ちの状態が解決できれば、収入も上がると思うんです。

働く人が少なくなっているから、収入も少なくなっているということに結びつきますので、どうぞ保育所の増設と、小学校の空き部屋なんかを利用して、何かやって頂ける方向でお願いしたいと思います。

【熊谷市長】

子育て政策についてですが、住むまちを探す時に、子育てサービスに対する数値を、比較をされる立場にあります。

確かに東京23区や浦安とかに比べれば、圧倒的に財政力が足りないので、お金を多く使う施策というのは厳しいものがあります。例えば、乳幼児の医療費に対しても、東京23区では中学校卒業まで無料だったりします。しかし、それを千葉市でやることは現実的にはできません。私どもはマニフェストに従って、入院費に関しては一気に引き上げる方向で考えていますけれども、なんとか無駄を省いていって、お金をそちらに回したいと考えています。少なくとも、子育て、未来の方向にお金を使うことが、何より大事だと思っております。

その中で、一人親の支援についても、シングルマザーへの支援について、これから強化してまいります。問題は、子育ての中でもお金が限られている中で、一体どこにお金を使うべきなのかということです。先ほど申し上げたとおり、乳幼児医療費はやりたいけれども、お金がない。親の皆さん方にしてみれば、特にどういったところにお金が回るといいなと思うのか、そういったご意見を頂きたいと思います。

保育所に関しても、作るのに非常にお金がかかるんですけれども、しかし、この待機児童の問題を解消しないことには、子育てサービスを語れないような状況になっております。

われわれが今考えておりますのは、保育所ももちろん作ってまいりますが、それだけではお金が持ちませんので、今あるものを活用しようということで、幼稚園の活用を考えております。幼稚園は少しずつ入っている人が減っておりまして、空きがたくさん出始めて、閉じる所も出始めております。園庭が立派で、設備も充実しているにも関わらず、そういう幼稚園が活用されていません。一方で、保育所が足りないといって保育所を作っている現状がありますので、我々は幼稚園のところに保育園の機能をどういう風に持たせていくか、そこにいくばくかの補助を出していって、保育園を一個作るよりも保育の受け入れを増やしていくという考え方を持っております。

それから、最終的には、民間の方々にどれだけ知恵を発揮して頂けるかということも大事だと考えておりますので、今まさにプランを作っているところです。そこについては、今まで以上に強化して、待機児童を本当に減らすんだと、その一方で保育の質もちゃんと確保していくんだという政策を練り上げているところです。

それから空き教室の話です。やはりここが課題だと思うんですけれども、子どもルームも、空き教室を使う方がいいと思います。そこの学校の同じ子供ですから。ただ残念ながら今までの現状は、子どもを扱う部署と、学校を持つ教育委員会の組織の違いによって、なかなか空き教室を使わせて貰えなかったりとか、もしくは、空き教室を使うといっても責任の境界をしっかりしないといけないとかがあります。ここで何か起きても、学校の責任ではなくて、保育所だったり子どもルームの責任ということをはっきりしなきゃいけないんです。そういう考えでやってきましたから、たとえば入口も別にしなきゃいけない、教室の真ん中に壁ができなくてはいけない。そういう問題がありました。逆に言うと、そういう風にしておかな

ければ、利用者だったり保護者からクレームが来ていたというのも事実です。そういうことが、結局過剰なお金の使い方を強いていた、というのも事実ですから、われわれはそういう事実もはっきり伝えていって、理解を求めながら、空き教室をいろいろな用途に使っていきたい、そう考えております。

最後に、老人ホームについてもこれから整備しなければならないので、莫大なお金がかかります。そういうことを考えると、ハードを作るだけじゃなくて、在宅でどれだけ介護ができるかについても考えていかなければなりません。老人ホームを作る、というのは簡単なことですけれども、それではお金が持ちませんので、それはそれで作りながらも、一方でどういう風に在宅介護ができるか、そこのサポートも考えております。

それから、健康保険に入っていない子どもたちについても、千葉市は取り組んでおりまして、中学校卒業までは、滞納者であっても保険証を出しておりますし、今回、高校生にも出すことを決めました。これは私のマニフェストにも書いてあったんですけれども、そこはやらして頂きますので、子どもに関して、医療を受ける権利だけはしっかりと担保するというような形をさせて頂きます。

【市民 B】

たびたびすみません。老々介護で殺人が起きたり、心中したり、そういう事件が新聞でたくさん出てくるというのは、子どもさん方が親元を離れて、外に出られますよね。他県に就職されている時なんかは、老人が老人をお世話するというのが、家庭介護の現実なわけです。

これは限界があって、ある年齢まではできるでしょうけれど、これをその方が亡くなるまでやれと言われても、家庭ではできるわけがないんですよ。その辺を考えて頂きたいと思います。介護保険を作った際に、ある大学教授が「介護がうまくいかない市は、どんどん人が減るよ」と言ったことがあるんです。そうなることが目に見えているので申し上げましたので、家庭介護というのはやってはいけないとは言いませんけれども、今の現状でできるはずはないと思っております。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

しかしお金には限りがあるわけです。ですから問題だと言われても、ホームを作るのももちろんそうですけれども、老々介護がだめであれば、市民の力でそれをどう支えることができるのか、ということを考えなければいけない時代に来ていることも事実なので、そういったところも考えて頂きたいと思います。

それでは、他にございますでしょうか。

【市民 E】

掲げられたロードマップを着実に実行されている印象を受けて、今後も市民参加の市政を、大いに進めて頂きたいとお願いします。

まちづくりの件で、今日も 10 年後 20 年後の千葉市のあり方ということで、地方都市や大都市というのは、インフラ整備、基盤整備、超高層のビル等の開発などが重点となって、景観や環境が軽視されているような印象を受けています。そこで千葉市の場合、遊休地の有効

利用をぜひ考えて頂いて、森を植林するとか、住宅整備も市と第三者のプロジェクトチームを作って、住宅の設計とか施設のデザインを決めて頂くとかが、よろしいかと思います。住宅というのは、東京周辺でも現実にあるんですけれども、やはり住む人が、多様な、例えば若い人から年寄りが、混在して住むというようなまちづくりが、東京の一部では進行しています。高齢者だけになっているところもありますし、森、あるいは住宅整備を検討して頂いたら、千葉市も発展していくのではないかと思います。

それから、地球の温暖化の問題が言われていますが、車社会から自転車中心の社会になってもらいたいと思います。例えばオランダは、土地は日本の 10 分の 1 ですけれども、自転車専用道路が 10 倍近くあり、自転車が有効的に使われています。自転車を大いに活用してもらいたいですし、そのための自転車道路の整備をお願いします。

【熊谷市長】

景観は大きな分野でして、例えば、幕張新都心のマンションが今でも人気なのは、あれこそまさに、習志野や船橋に住まずにあえて幕張のベイタウンに住むという方が多いわけですけれども、一つには、景観が統一されている、非常に厳しいデザインコンセプトのもとで建物が作られてきて、一つの景観があそこに完成されているというのも大きな要素です。

そういう意味では、景観、デザインも住政策だと思いますけれども、そうした分野に関して何かご意見を頂ける方がおりましたら、お聞きしたいと思います。

【市民 F】

千葉市の魅力が何かと言いますと、私は、花だと思うんです。この花をどのようにアピールするか、確かに花の美術館ですとか、他の市に無いような美術館という位置づけをして、近くなので私もよく行かせて頂いています。

一番大事なのは、市長が言われたような美しいまちづくりで、全国の人たちに千葉市って美しいよねと言われるような、そういうまちづくりが一番大事だと思うんです。で、公園を作るにしても、維持費がかかりますし、市民参加型のそういうもの、私も有機農業のネットワークをやっていまして食の安全に取り組んでいるんですけれども、例えば木があれば落ち葉が落ちますし、その掃除は誰がするのかということになりますが、それを考えたときに、落ち葉とか草とかを有効活用して、千葉のエコ農業を訴えていますが、国では有機農業推進法が通りまして、現実にも世の中の人がこんな食をしていては危険だということを気づき始めているわけです。

ですから、農薬を使ったり、肥料を使ったりすることが、健康にならない、そして医療費も上がっていく、やはり健康が一番大事であるということが大切で、だから、美しいまちと健康を結びつけるには、もう少し有機農業を推進していくとか、国がやっているだけでなく、千葉市としてもっと強い推進をしていけば、例えば、デモンストレーションガーデンを作って農業をアピールしていき、そこで市民の人が草をとったり落ち葉を集めて、楽しみながら、市民が参加することによって美しいまちをつくっていくことが大事じゃないかと思います。

最後に、この間、市長が検見川送信所の保存のことでいらっしゃいましたけれども、私も、現在は美しいとは言えませんが、歴史的な建物として、どのように美しくされていくのか、一万坪の公園が予定されていますけれども、その公園もどういうコンセプトでなさるのか、

その辺のところをお聞きしたいなと思っております。

【熊谷市長】
ありがとうございました。何人かもうしばらく伺いたいと思います。まちの景観について、もしくは緑について、お話があれば伺いたいのですが。

【市民G】
先ほど市長さんからお話ありましたように、住民が減るということはどういうことなのか、われわれもいろいろ考えているんですが、やはり若い人が出て行ってしまう、残ったのは年寄りだけ、その年寄りが何かあったときにはそこは駐車場に変わってしまうということがあります。そういうことが今、繁華街でだいぶ増えています。そういったことで、やはり若い人たちに、千葉市内の勤め先を作ってやるということが一番問題じゃないかなと思いました。
それと、10年後ということでございますが、今、道場、鶴沢、旭町に、中溝排水路がございます。あるとき、中溝排水路を埋めて広くしました。しかし、その上にせせらぎをつくるという話が盛り上がっております。水があるからせせらぎを作るんであって、水がないのにせせらぎをつくる話が進んでおります。そして、鶴沢小学校に井戸を掘って、その水を汲み上げて川に流しています。それには、電気も使っていますし、経費がかかるわけでございます。それから、水を汲み上げると地盤沈下というものが出てまいります。県の水道局でも何箇所か浄水場がありますけれども、それも今、止めております。そして、印旛沼の水をわれわれが飲まされているということです。では、県はなぜ止めているのかと言うと、地盤沈下だそうです。240m掘っているんだけれども、やはり地盤沈下があったのでは困るということでした。そういったことから、水道局が止めているということでございます。10年後に地盤沈下あった場合どうなるかをみますと、やはりこの水は、使わない方がいいのではないかなと思います。防災用として掘ってはいるんですけれども、毎日流すのは地盤沈下に良くないのではないかと思います。そして、せせらぎを作るのに11億のお金がいるそうです。国からも出るような話もありますけれども、11億を浮かして赤字の方に回したらと思います。

【熊谷市長】
ありがとうございました。
個別のお話ですので、それは個別に対応しっかりとさせて頂きますけれども、できましたらここは10年後、20年後のまちづくりという観点の中で、広い方向性のお話をさせて頂きたいと思います。
先ほど農業の話がありました。確かに、千葉市の特徴というのは、政令市の中に農業地帯が本当にあると、もしくは昔ながらの自然が残されているところが魅力ですので、そうしたものを身近に感じられるようなものを、まちの中にどれだけ作っていけるかということも大事だと思っておりますので、そういう方向性で、この千葉市のアピールというのはやっていくべきなのだろうと考えております。
ここでこのテーマを終わりにしまして、またお伺いしたいと思います。

【市民H】

この行政改革推進プランの中に、市民とともに構築しうんぬんの中に、協働という文字がございます。これはですね、市民が一緒になって市政に参加するという意味だと私は記憶しています。

市民が参加するということは、その行事に対して責任を負うことにもなるのではないかと考えています。というのは、新港横戸町線の道作りの中に、協働で作業するとその文言が出ているんです。ですから、市長が仰ったように、新しい道はこれから検討する、できあがりつつあるものは行うと、こういう風に話されているんですけれども、ある程度、協働ですとかそういう文言についても説明をしていかないと、なかなかやはり市民が一緒になってプランに参加できないんじゃないかと思います。

それと、もっと活性化した自治会が千葉市の中に出てくれば、お互いに千葉市っていうのはこんなに近所隣同士が仲良くやっているんだというアピールになって、お年寄りも行事に参加できて、健康体になり、医療費も減ってくるんじゃないかと思います。

そういうことで、文言について、もっと市民にわかりやすいような文言にして頂けたらということと、高齢化が進んでまいりますので、今の 70、80 才の人は戦後の日本を作り上げた方たちですので、その人たちの生活にも充分に配慮した、市政を見据えて頂きたいと思っております。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

文言に関しましては、確かに協働というのは広い意味がありすぎる、と私も思います。その場合２つあって、新港横戸町線を作るなかで市民の意見を聞く、それはたぶん道路を市民が管理するというのは現実的ではありませんし、そこに責任を負えといっても困ってしまうと思いますので、市民の意見を聞いていいものをつくりましょうという意味と、それから、本当の意味で、市民が主体となって事業をやる、そういう協働もあります。

協働というのはちょっと広すぎると私自身も思っておりますので、ご指摘も頂きましたので、そういう広い網を掛けるような言葉ではなくて、もっと明確な言葉で、市民とどういう関係性でやるかをわかりやすいように考えたいと思います。

先ほど自治会の話がありました。自治会については、午前中にやった中央区でも活発な意見が出ました。地域のコミュニティをどう維持していくのかというのが一番重要ですから、自治会なり地域コミュニティをどうやって活性化していくのか、どういった役割を担って頂くのかというのは非常に重要なテーマになってまいりますので、このテーマの中でご提言なりご発言されたい方がいらっしゃいましたら、お願いしたいと思います。

【市民Ｉ】

稲毛区の地域福祉計画の策定に関わった関係で、ここに出させてもらっています。午前中にその地域福祉計画の推進のための協議会というのをやっておりまして、それに参加されていた方もたくさんいると思います。

地域福祉という言葉は、なかなか聞きなれない方も多いと思いますし、私自身も正しく理解しているかわからないんですけれども、まさに地域のコミュニティの中で、障害者、高齢者、そういった助けを必要としている方、またそれだけに限らず、いろいろな人が助け合い

ながら支えあいながらまちを活性化していく、というものだと思っているので、そういう意味では、地域コミュニティという言葉と関係があると思っております。

その地域福祉計画は、平成16年から、まさに市民参加、先ほどの協働という言葉を使ってもいいと思いますが、市民と行政と一緒に作った計画です。市長が、一回傍聴にこられたのを覚えております。そういう長い間、前から作ってきてできている計画なのですが、まだなかなか皆さんにうまく伝えられていないという部分があると思うので、ちょっと中身に触れる時間はないのですけれども、まさに計画に書かれていることを動かしていくようにすれば、地域コミュニティが構築されていくと私は思っております。

少しずれるかもしれませんが、10年後、千葉市を住み続けたいまちというような視点でいうと、市民と行政が一緒に作った計画を、市民と行政と一緒に実現させていく、みたいなことを対外的に発信できれば、千葉に住んでみたいなとか、住み続けたいな、というようになるんじゃないかと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。もうお一方、どうぞ。

【市民J】

４年前に千葉市に来まして、４月から園生町に住んでいますが、あまり知り合いもないものですから、ボランティアに参加したいなと思っているんですけれども、どこにどのように必要とされているかがわからず、そういった情報を広報とかで発信して頂ければ良いと思っています。

また、参加しやすいように、週一日だけでもいいような、そういう情報が全然知らないので、個人的にスポーツセンターに行ったりとか、そういうように過ごしているので、これからそういうこともできたら、千葉市にも長く住めるかなと思って、今日は参加させて頂きました。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

もうお一方、お話を頂いてから、私から話しをさせて頂きます。

【市民K】

熊谷さんは、市民に汗をかいて下さいとよく仰いますが、是非かかせて下さい、という年代です。

熊谷さんはたぶん私の子どもと同じ世代だと思うのですが、私の年代ではいろんな同窓会をしますと、リタイヤ組が何かをしたいと思っても、そのシステムがないということがあります。私は参加している会を通じて、皆さんから、いろいろお互いさまよと助けて頂きました。

それに対する答えがないんですね。互助のシステムを評価するシステムを作って頂きたいと思います。昔、農村では手間返とか結とか、この地域では地域通貨ピーナツとかありますが、そういうツールを市で開発して頂きたいと思います。それから、リタイヤ組予備軍の人

材活用をして頂きたい。東京都の稲城市の例を持ってきたんですけれども、ボランティアがツールで貯めたポイントを、例えば花の美術館の駐車料金に変わるとか、それから動物公園の入場券に変わるとか、そういうものでもいいと思いますが、ツールと人材活用をよろしくお願いいたします。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まさに、私が目指そうとしている方向と同じでございまして、これから高齢者が増えるということは、企業からリタイヤされる方がたくさんいらっしゃるわけですけれども、そういう方々のエネルギーと経験を使わないのは、あまりにもったいないと思っております。

ただ、先ほどお話にあったように、自分は何ができて、求められるような人なり場所、団体はどこなんだというのは、なかなかわからないと思うんです。ですので、私もマニフェストで、そういうボランティアをしたいという人と、ボランティアを求めている人とをマッチングする、出会う場なり出会う情報の提供の仕組みを作っていかなくてはならないと思っております。これも、整備するために検討しているところでございます。そういう形で、何とか、情熱を持て余すことがなく、かつ困っているのに、猫の手も借りたいというその手を借りられない人たちが何とか出会うようなものをやりたいと思います。

それから、ポイント制というのは非常に大きなものだと思っていまして、私も今ポイント制度について検討しております。ポイントをどういう形にするのかにもよりますが、私としては、ポイントを自分のために使ってしまうと、また変な使い方になってしまうと思います。ですので、そのポイントをさらに他の人のために使うような、ポイント制にしようと考えています。

市川市で市民税のうち１％を、団体なり NPO に支援する制度がございますけれども、それと同じように、貯めたポイントを、自分が力を注いでほしい分野に使うようにするのか、もしくはそういう市民団体・NPO にそのお金を使うようにするのかとかありますけれども、そういうような形で、だれかを助けた場合に互助ポイントみたいなものをつけて、それをさらに市民の福祉のために指名して使えるような、そういうシステムを合わせて構築したいと考えておりますので、また周りの方々ともお話して、具体的にどういうボランティアと出会う情報を、どういう形で出してほしいのか、インターネットだけではだめでしょうから、公民館なのかコミュニティセンターなのか、区役所なのか、そういう意見を頂戴したいと思っております。

それから、地域福祉計画については、中央区の方でも意見が出ました。私も稲毛区の会議を傍聴させて頂きましたし、想いを持って参画したのに、ちょっと進め方が微妙だね、という話も十分理解しております。地域福祉計画という、まさに地域の人たちが集まって知恵を絞って、それぞれの区ごとに作った計画が、実行されるような、もしくは実行するにあたってちゃんと意味のある組織のもとで進められていくということが、何より大事だと思っております。

中央区では、区役所の権限がないから、という意見も出ました。区の地域福祉計画を事務局として支える区役所が、残念ながら本庁に対して何の権限もない現状では、なかなか本庁に権限のあるものについて、進め方ができないのではないかという意見もありましたので、

区役所への分権の中で、実現していくんだろうと考えております。
　それでは、障害者の方からの意見を伺いたいので、よろしくお願いいたします。

【市民Ｌ】
　私は、両親が亡くなって、親せきも近くにいません。支援を増やして頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
　私は車椅子で外出していますが、道路に坂が多く、怖いところもあるので、そういうところの舗装をお願いします。車椅子の人は、車道から歩道から上がる時に段差があると、時間がかかり、赤信号になってしまいます。周りの方が助けてくれることもありますが、パニックになることもあります。段差を減らしてほしいと思います。よろしくお願いいたします。

【熊谷市長】
　ありがとうございました。
　仰るとおりでございまして、歩道を作る時には必ず、バリアフリーになるように考えておりまして、段差解消についても、全部が一気に変わるわけではないのですが、少しずつ歩道の段差解消を進めております。
　われわれが考えなければならないのは、何かを作るときに必ず、いろいろな立場の人の事を十分に検討したうえで、ものを作っていくということだと思いますので、そういう障害者の方であったり、そういうさまざまな人たちのお立場を考えるのももちろんそうですし、そういった方の意見が、さまざまなまちづくりの中で、取り入れられていくことが必要だと思っております。
　障害者の方々は、具体的にちょっとしたところを直すだけでだいぶ変わる、というのはたくさんあると思うので、何かやるときには、必ずこういう点に注意してほしいという意見を、団体なりグループを通して、お寄せ頂きたいと思います。

【市民Ｍ】
　聴覚障害者で、現在 75 歳です。
　車を運転して使っております。78 歳になったら更新になりますけれども、青葉病院とか国立病院とか、いろいろなところに通院していますが、自分の車で通っています。80 才だと運転できなくなりますけれども、その代わりに、バスや JR などの公共機関を使いますが、去年までは、70 歳以上の人は皆、バスの無料券があったのですが、今年はなくなってしまったので、もう一度復活して頂きたいと思うのですが、いかがでしょうか。

【熊谷市長】
　私も選挙のときを含めて、ご意見を頂きました。私自身も本心では、当然そういうことは必要だろうと思うのですけれども、しかし現実にそれを実施するためには、10 億円近い税金がかかりますし、これから高齢者の方の人数が倍以上になることを考えますと、現実的には続けることが不可能な事業であります。
　考えなければいけないことは、等しくバスを無料にすることはできないかもしれないけれど、本当に救いが必要な方が外に出て頂くために、何をサポートしていくべきなのかという

ことについては、逆に考えていかなくてはいけないと思っています。

ここが非常に難しいところでして、私はあえて批判を承知で申し上げますと、これから、今やっている高齢者の事業というのは、全部続けられないのは事実なんです。そのときに、どういう形にするかというのは、市民と十分話し合った上で決めていかなければなりません。

敬老祝い金にしても、結局予算を作るときにお金が足りないから切ったわけです。そういうことではなくて、高齢化というのは数値としてわかるわけですから、今やっている高齢者の事業が、10 年後にどれくらいの規模になって、それが現実的にできないのであるならば、どれをあきらめるのか、もしくは所得制限をつけるなり、もしくは金額を減らすなり、そのやめ方なり見直しの仕方について、対象の方々から意見を聞いた上で、一番納得のできるものは何なのかということについて、時間をかけて議論をしなくてはと思っております。

ご要望にはこたえられないですけれども、ただ外に出るということに対するサポートは、何とか考えていきたいと思っております。

【市民 N】

別の視点から申しあげます。10 年後の千葉市は、相変わらず財政は豊かではないけれど、市民一人ひとりは皆、生き生きと輝いて活気に満ちている。それはどうしてでしょう。それはね、市長さんが、市民一人ひとりの人権を、最も大切にしている市だからだよ。という会話があちこちで聞かれますようにと、願っております。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

人権を大事にというのは、納得感が大切だと思います。実はこれがとても大切なことだと考えております。税金を払っていることに納得ができるかどうかが大切だと思いますので、納得感が持てる行政なり、市民との関係というのは、非常に大事だと思っております。ご意見ありがとうございます。

【市民 O】

知的障害者の子どもを持つ親です。千葉市が、お年寄りや障害者が安心して暮らせるまちになってほしいという願いがあります。誰かに支えてもらえないと生活できない、暮らしていけないものでも、入所施設や病院とかではなく、地域の中で生活を送ってほしいと親として願っております。

地域で生活するためには、行政の支えも必要ですが、同じ地域で暮らしている方々の支えがすごく重要な鍵になります。千葉市の高校生の作文に、人は人と繋がらなければ、生きていけるかもしれないが、暮らしていけない、という文面があったんです。本当にそうだなと思って、お互いのことを理解できるには、知り合わなければだめだということで、気軽に挨拶ができる環境づくりが必要じゃないかなと思っています。

あと、地域で暮らすには、地域の人とつなげてくれる人とか、相談に乗ってくれる人とかが身近なところにいるというのがとても大事なことで、そういうコーディネートができる人や、システムがあるといいなと思います。

【熊谷市長】
ご意見ありがとうございます。続けて伺いたいと思います。

【市民Ｐ】
近所の有志でやっていることを、お話したいと思います。
稲毛東５丁目の道路の狭いところで、杭があって道を車が通れなかったり、段差があったりするので、ちょっと不便だなと思いましたけれど、それを逆手にとって、サザエさんの漫画に出てくるような縁台を、道に２つ置いたんです。そこで、飲んだり食べたりバーベキューをやったり焼きそばをやったり、自分たち５軒くらいで楽しむんですが、それだけでなく、そこでいろいろな相談をするんですね。
夏には流しそうめんをやって子ども会の人たちを一緒に巻き込んで、若い親子に喜んでもらって幸せな気持ちになりました。次は餅つきをやりたいね、という相談も、縁台に集まってやっているんです。最初は、黄色い縁台なもので、家の前に置かれた時に、花の色が死んじゃうなと思ったんです。けれど、それを活かさなければいけないと思って、竹灯篭を飾ったり今度座布団を置こうかなと考えていたり、日々どうやって飾ろうかなと楽しみにしているんです。
小さな縁台でいいんです。30cm くらいの２人くらい座れるものでもいいですから、置けるところあちこちに置いて、コミュニケーションを図って、そういう人たちといろんなつながりを作っていけるような、ご近所付き合いをしたらどうかと思います。現に私たちは、引越して 40 年経つのですが、とってもいい地域だなと思っています。

【市民Ｑ】
補足しますと、要はそのような縁台を置いて、皆さんが集える場所を作ったらいい、という提案です。

【熊谷市長】
取り組みのご紹介も頂きまして、ありがとうございます。続けて伺いたいと思います。

【市民Ｒ】
東京の江東区から 14 年前に越してきて、稲毛暦は６年くらいです。目の前に草野水路の桜並木があって、裏に保存樹林、斜面樹林があるという環境の中に住んでいます。
千葉市の強みと特徴に関してなんですが、やはり先ほど仰ったように、自然が身近にあるというのが、一番大きな強みになるのではないかな、と考えております。
そのほかには、もちろんすぐに強みとは言えないのですが、資源としては、千葉の場合ですと団地、そこに住んでいる特定の年代の方々がたくさんいらっしゃる。そういう空間・ハードもたくさんある。これは資源として活かさない手はないかなと思っております。
以前ですが、千葉市の文化振興財団が「カルチャー千葉」という雑誌を出しておりまして、その中でまさに、千葉を住み続けたいまちにするにはどうすればいいかという記事を書かせて頂きまして、その中で、ヒントとして挙げたのが、萩台の市民農園、西小中台団地のカフェ、それとこれは船橋なのですが、団塊の方がご自宅を建て替えられて、１階をデイサービ

スにされて２階をご自宅にされた、というような事例です。

ハードそのものは概ねあるでしょうから、市長が仰られたように、特にマッチングのシステムをどう作っていくかというのが、一番重要だと思っています。そういう空間資源、人的な資源、いろんな資源と地域の課題がどういう風に結びつくか。これは、何も行政ばかりがやる話ではありませんので、そういうマッチングのシステムを作ったり、実践するところに対する支援ということをやる必要がある、重点的にやるべきかと思います。

【熊谷市長】

まず障害を持たれているお子さんの話ですけれども、やはりそこは、地域の理解です。また、相談できるような体制、相談できる人がどこにいるのかということが大切で、たぶんそれは、お隣の方が仰られたように、ボランティアをしたいと思っている方との出会いの場を必要としているんだと思いますので、そういう障害を持っている方々を地域に溶け込ませるために、どういうようなことをやって頂ける方が地域にいらっしゃるのかということにも関係してくると思います。

縁台の話は、非常に特徴的だと思います。今、地域のつながりがなくなってきているのは、昔は１戸建てがあって、目の前の庭と道路で普通に会話が成立していたりですとか、そういう話がなかなか少なくなってきているからとも思います。縁台みたいなところで、そういう話ができるような空間作りができると思います。特に、商店街でそういう取り組みをやっているところって多いんです。飛騨とか有名なものがあります。商店街にベンチを置いて、お買い物のときにちょっと休んで、休んでいる人たち同士で会話が成立するような空間作りというのは、われわれにとっても一つの指針になるんじゃないかなと思います。

それから、自然と農の強みがあるというお話です。住んでいる人、それからこれから住もうかという人たちにどうアピールできるかな、と考えています。そこが戦略的にも大事です。それから団地です。政令市または全国の大都市の中で、千葉市ほど団地の比率が高いまちはないので、この団地というものの活用、それは当然負の側面もあるのですが、ポジティブな側面もあるので、どうやって活用していくかというのは、非常に重要なテーマだと思っています。

それから、マッチングのシステムに対する支援です。行政だけでやると小回りのきかないシステムになってしまいますので、それぞれの地域ごとにやってらっしゃるものに対する支援だったり、横の連携を行政としてどういう風にサポートしていくのか、そういうことがテーマになってくるのかなと感じました。

他にご意見はありませんか。お願いします。

【市民Ｓ】

先ほど皆さんからお話ありましたように、高齢者が多くなったため、地域住民との交流の場を持って頂けたらと思います。私も一人じゃ生きてられませんから、老人の方との話に仲間入りがしたいんです。

私は、稲毛のいきいきプラザにお世話になっています。200 近く下駄箱があるんですけれども、下駄箱の上にまた 100 くらい、靴が乗っかっています。いかに老人が多くなったかわかります。いきいきプラザをご利用なさっている人が多いと思いますが、下駄箱に入れると

ころがないんです。下駄箱がないなら入り口で履き捨てていいのかというと、そうもいかないです。これからは、自分が履いているものは持っていく、そういう風にやればいいんじゃないかと私は思っています。ビニールに入れて、自分のものは自分で管理するわけです。

稲毛区はこのごろ、火災が多くなっています。火災については、戦後建てた公団住宅は、エレベーターがないので、階段をあがって５階まで行くわけです。３階が火災の場合、４、５階にいる人が避難するとき、ベランダを開けるという約束事があるらしいのですが、ベランダに何か置いていると、いざというときに通れないのです。したがって、５階に避難通路とかそういうのがあれば、３階で火事があっても防災対策になると思います。

【熊谷市長】

団地の防災のお話ですね。ありがとうございます。

他にもご意見を頂きたいと思います。

【市民 T】

今まで千葉市を見ていると、見た目がとても重視されてきたかな、と思います。新しいきぼーるにしろ、中身がとても使い勝手が悪い。うちにも知的障害児がいますけれども、車椅子でなかなか駐車場から中に行けないというのがあって、これはやはり、見た目よりも、これから 10 年後、20 年後は、中身を重視することがとても大切だなと思っております。

地域福祉計画にも出させて頂いておりますけれども、やはり人づくり、そういうところで、私たちは小さいときから地域に住んでいないんです。子どもたちが遠いところの施設に行きますから、親子とも、地域にはいません。地域の中で、子どもが生き生きと生活できる、日中活動できる場、空き教室とか、いろいろ統廃合されている施設がありますが、そういうところを活用させて頂いて、通所施設とか、デイサービスとか、子育て支援とか、地域の方々が必要とするものを、地域住民が考えて一緒にうまく活用することによって、地域の子どもたちも、うちの子どもたちのことを知って頂けるのではないかと思っています。

今までのように遠くにいると、知り合うこともできないんです。町内の行事に出られませんので、知り合うことができません。ですから、小さい頃から地元で暮らす。学校が違っても、土日とか、そういうときに一緒に活動ができるような場、そういうものを作ることによって、周りの地域の子どもたちにも、しっかりと理解して頂いて、人間育成というところを始めて頂けるといいかなと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。他にもご意見を頂きたいと思います。

【市民 U】

私は、熊谷さんが今の市政を続ける限り、10 年後には必ず財政危機は乗り切っている、と確信しております。

今、議会も変わってきています。本当に今までは、与党の大半がお任せの議論をやっていたような、それは本当に感じます。しかし、今は違います。そういう意味で、国政も変わりますけれども、今、千葉市は本当に変わります。そして、熊谷さんは、若いけれども、すご

いパワーを持っている。全国一の若さだけではなくて、行動力も持っています。これは議会を傍聴していて、本当に感じます。

コミュニティを復活させることが、住みよい千葉をつくるために一番大事だと考えます。今までは、大企業の誘致だとか、そういうことに頼ったりしましたけれども、これから、本当は、人口が減るのは世界的な規模で見れば悪いことじゃない、つまり、人口が増え過ぎて大変なことになって、資源がなくなっている時代ですからそう思いますが、そういうときにどうやって暮らしていくかというときに、今までの右肩上がりの発想じゃもうだめなんです。そういうことを考えますと、私たちは、例えばコミュニティを、復活させるべきと考えます。皆さんそうおっしゃっています。

地域貨幣の問題は、先ほど点数制とか話が出ましたけれども、これはシルビオ・ゲゼルという貨幣学者が昔唱えた理論ですけれども、そういうことが生きる時代です。何かやれるということをおっしゃいましたけれども、大事なことは、本当に何ができるかということを、単に遊びだけで集まっているような集まりの中でも、考えることです。

今日ここの経験を皆さんが持ち帰って、話し合って、自分たちが本当に何ができるかというのを、自分たちの住みよい千葉を作るためには、それが一番の基本なんだということを、皆さんに訴え続けて、その輪を広げることが、千葉市をよくすることだ、と思っています。

質問がありまして、国政で行われている事業仕分けについて、千葉市では前からやっていますから、そのときの、民間の評価委員をどんな風に選んでいるか、ということと、それから一番大事なことは、市の職員の皆さん方のモチベーションと責任感、それと今までの考え方を変えて頂いて、本当に市民の声を聞くために、どういう風に活動されるかということが問われているとだと思います。それで私は、福祉の問題には、今千葉県で堂本知事がやったことが、森田知事になって消えてしまっているんですけれども、中核地域生活支援センターというものが今後どう取り組まれる予定があるか、聞きたいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。いろいろ頂きました。

いきいきプラザの話、埋もれている高齢者を引き出すという話と、それから、下駄箱の話がございました。各論であると同時に総論でもあるかなと思います。市が場所を用意して貸すというだけじゃなくて、下駄箱一つとっても、自分たちでやってもらう、そういう過剰なサービスについても、考えていった方がいいということもあるんではないかと思いました。

それから、団地の防災の観点からも、今のままではいかん、と思っております。団地の再生、建替を含めてですね、私はあと 10 年くらいがタイムリミットだと思っておりますので、そうじゃないと団地に住んでいる方の高齢化が著しくなって、もはや建替に対する気力すら沸かなくなると思っていますので、危機感を持って、団地を考えていかなければいけないと思っております。

市役の施設が、見た目重視で使い勝手が悪いというお話です。これはちょっと否定できないところがあると思っております。施設の有効活用を含めてこれが課題になってくるし、われわれも、役割を終えていく施設が、今後長いスパンでどう出てくるのかということについても、事前にお話していって、使い方について市民と一緒になって考えていくということだと思っております。

それから、議会の話が少し出ました。私がここで改めて申し上げたいのは、市民と市役所の意見交換というのは、本来は議会という場が行う、それが民主主義というものなんです。議会の費用は、10億円以上かかっています。なぜそれだけの巨額のお金をかけてやっているか、そしてわれわれも議会対応に凄まじいコストを割いております。それだけ行政の税金と職員の手間を市議会に注いでおります。

ですから本来は、市民の声を代表して、市民の声に沿った行政をやるための、わざわざ莫大なコストをかけて昔から続けているのが市議会だという認識を、持たなければいけないと思います。やはり市議会を見る方々が増えなければいけませんし、それから、市議会議員の方々の発言が、真に市民の声を代弁するものであってこそ、こういう場で議論されているのと同じ次元のことが、私は市議会で話し合われなければ10億円以上の税金を無駄に捨てていることになりますし、市議会というものの役割を、多くの人たちに認識して頂きたいと思っています。

また、投票というものについても、意識を持って貰わないといけないと思います。今回、稲毛区で選ばれた方が、逮捕されるという事態に至りました。しかし、これは別に行政が議員を選んだだけではありません。稲毛区民が選んだわけです。自分が投票していなかったとしてもです。そして、その後の補欠選挙においても、投票率は非常に低かったわけです。それは、私はこのままであってはいかんと思います。

そういう意味においては、市議会というものに対して、私たちも議会も、もっと頑張らなければいけないですし、また区民の皆様方にも、自分たちの代表者として正式に扱われているのは議員の方々ですから、市議会というものに対して、積極的に関心を持って頂きたいと思います。

それから、コミュニティの復活、それから自分でできることを周りに伝えていくことが大事ということがありました。

事務事業評価の外部評価員の選び方についてですけれども、これは、民間至上主義者を選んではいけないと考えました。行政と民間というのは決定的に違いますから。民間の考えを取り入れるのは大事ですけれども、民間の目線全てで行政を判断されてしまっては、泣く方々がたくさん出ますので、民間至上主義者は選ばないという考えがありました。

それから、できれば行政経験者、それも改革系の首長の方を絶対に入れるんだというのがありまして、評価員の中に、元我孫子市長の福嶋さんにも入って頂きました。この方は、そのあと国の事業仕分けに引き抜かれてしまいましたけれども、それでも非常に素晴らしいご意見を頂戴することができました。

それから、他の自治体の総務畑で、部長くらいまで勤めた方がほしい、そういう方々の方が、行政の内部事情をよくわかっていらっしゃいますので、そういう方々から切り込んでもらうことも大事だろうということで、県の部長をされた方をお願いしました。この方もいい意見を言って頂きました。

それからあとは、行政改革に関わってきた学識経験者の方であったり、もしくはPTA、保護者の代表で見識を持っておられる方、こういう感じで選びました。私が直接指名をした方は福嶋さんだけですけれども、そういう考え方を伝えて行政で選んだという形になっております。

市職員の考え方については、これからスタートだと思います。一番大事なことは、今まで

局の中でやっている仕事について、他のところの人間がこれが必要なのかと問うたことがほとんどなかったので、行政がやっていた仕事が、そもそも本当に今やるべきなのかということをいろんな目線で追求する、もう一度確認する行為そのものが、行政が今までやってこなかったプロセスなんです。ですから、今回初めてやりました。

私はこれだけで全てが変わるとは思いませんけれども、職員の意識が少しずつ変わっていくきっかけになるんだろうと思っていますし、ならなければならないと思っています。

時間が押してきましたので、あと２名ほどで閉めさせて頂きます。

【市民Ｖ】

裏の公園で、小学生５、６年生の男子が池のところで遊んでいて、５、６人の子で、一人の子が罰ゲームで池に落とされたところを目撃しました。誰か注意するかなと思ったんですけれども、誰も注意しないので、ちょっと寄って、注意しました。そうしたら、怒られちゃったよ、と言いながらやめましたが、私が一周回ってまたそこに来たら、また罰ゲームをやっており止めなかったので、コミュニティセンターに入って、そこにいた男の人に、注意して下さいと言ったんです。

周りに注意する人が一人もいなかった。それがすごく残念に思いました。宝のような子どもたちです。日本の宝だと思います。やはり健全な育ち方をさせて頂きたい。通学なんかも、帰りに道草しないで、一回帰って、お母さんか何かに遊びに行ってくるよって言って帰りなさいって、必ず私は声かけるんです。健全な子供たちを、日本の宝を育てていきたいと、私はそう思います。

【市民Ｗ】

いろんなご意見うかがっていて、皆さん行政に対していろんなことを考えているんだな、ということがよくわかりましたし、こういう機会というのがもっとあった方がいいと思いました。

市議会議員の方は、選挙のときだけですが、いろんな意見を言ったりして、そのお話を集まった人が聞きますけれども、当選した後、４年間の間にこういう場があるのかな、と今感じました。ですから、今日は市長さんを囲んでのタウンミーティングですけれども、区ごとに、立候補して当選した市会議員の方を囲んで、いろんな問題を地域は抱えているわけですから、それを、町内会の会長さんとかの集まりから吸い上げるといいと思います。

マンションとかに住んでいると、町内会さんの集まりに参加することがないんです。ですから、やっぱり区として、こういうミーティングを持つべきだなと思いました。区民の意見というのは、本当に吸い上げられないんじゃないかと、今感じました。よろしくお願いしたいと思います。

【熊谷市長】

まず、行政としては、こういう場を継続的に設けていきますし、来年度はもっと増やしていこうと思っております。来年度、再来年度には、区長もそれぞれの区でやれるようにしたいと思っております。

議員の方ですけれども、私も議員のとき、本来こういうことをやるのは議会であり議員で

なければ本当はいけないんだと思いました。ですから、本来であれば、こういうものを、議会として、議員の説明会、市政意見交換会みたいなものを、私は議会にやってほしいと思っておるんです。ですので、２年後に市議会議員選挙がございますので、そういったときに、４年間の実績を、いきなり４年後に出てきて言うのはいいけれども、そもそも毎年やることをあなたたちはやるんですか、やらないんですかということを質問して、やると言った方に私は投票して頂きたいと思うんです。そうでなければ変わらない、というように思います。

われわれのシステムとして、これから行政に対して議員の方々が、どういう要望をされたのかというのを全て記録に残して、全て公表いたします。それをご覧頂ければ、市民の声に立った要望活動を行っている議員がどなたであって、逆に市民の意見と違うおかしな要求をされている方がどういう方かというのが、ある程度わかると思います。そういったことを含めて、私は素晴らしい議員の方々が、もっともっとさらに増えていくことが望ましいと思っています。

それから、子どもと大人の話です。これは、午前中も出ましたけれども、私が言うのは、社会の悪い部分を教育で直せるはず、子どもを教育で叩き直すみたいな話がよく出ると思うんですけれども、私はおかしいと思っています。大人がどういう風に行動しているかを、子どもは見て育つわけですから、私はまず、子どもを良くしたいのであれば、大人が変わらなければいけないと思っております。大人の背中を、いい背中を見せなければいけない。だから、われわれ大人が、どういう風にしていくかが大切です。

午前に出た意見で、面白いものがありました。子どもたちに大人のやっていることで、いけないなと思うことを挙げさせるんだそうです。それを大人に突きつけて、大人が一年間かけてどうやって改善するかということをやると。

そういうような考え方が、必要だと思っています。私が今大きく変えようとしていることは、子どもたちが主役になるまちを作ろうとしていることです。それは、子どもたちがまちに対して意見を言う、子どもたち自身でまちを考えて、大人に対しても対等にものを申してもらいたいと思っています。そういうまちを作っていくなかで、大人自身も変わっていかなければいけないと思っております。仰るとおりですね。ありがとうございます。

【鈴木企画調整局次長】

ありがとうございました。

ちょうどお時間もまいりましたので、そろそろまとめに入らせて頂きたいと思います。それでは、本日の全体の内容につきまして、市長からあいさつをお願いします。

【熊谷市長】

本当に今日はさまざまなご意見を頂きまして、ありがとうございます。私にとりましては、あっという間の２時間でございました。

こういうものを始めるときに、初めての試みですので、どういう意見が出るんだろうかと、要望、陳情にならないだろうかなどと、そういうような話をしました。けれどまずやってみることが大事だろうということで、非常に前向きな、それぞれがお持ちの危機意識、問題意識、もしくは夢、希望についてお話を頂きました。最後の方にも仰って頂きましたけれども、こういったものを継続的にやっていくことが、大事だと思います。アリバイ作りでこういう

場を設けているわけではありませんので。

これからワークショップもございますし、ワークショップ以外にもさまざまな形で皆様から意見を求めていきたいと思っています。これをスタートにして、周りの方にも、もっともっと輪を広げて頂いて、それぞれが、10 年後のまちの試案なりをまとめて頂いて行政に持ってきて頂けるとか、ワークショップでやって頂けるとか、さまざまな形でわれわれ行政にぶつけて頂きたいと思います。

そういう意味では、こういう場がわれわれのあずかり知らぬところで企画されて、市長来い、と言われるような形がどんどん増えていくことが、私は最終的な理想の姿だと思っておりますので、今後ともそれぞれのお立場から、千葉市のまちづくりについてお考え頂いて、ご提案を頂いて、そして素晴らしい試みを共有しながら、全国に、この千葉市こそが市民のまちであるということを、叫べるようなまちにつくっていきたいと思っておりますので、今日をスタートに、また改めて、千葉市の 10 年間の計画を作っていくため、お力をお貸し下さいますようお願いを申し上げまして、私の終わりのあいさつとさせて頂きます。本日はありがとうございました。

■閉会

以上